

「生まれてよかった住んでよかった」と 実感できる鹿児島を目指して

新年、明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、日頃から、県政の推進に多大な御支援・御協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

我が国は、本格的な人口減少社会の到来や少子高齢化の進行、経済のグローバル化や技術革新の急速な進展などにより、社会のあらゆる面で大きな変革期を迎えています。

こうした中、私は、「県民が主役の県政」を実現するため、「知事と語ろう車座対話」をはじめ、様々な機会を通じて県民の皆様のお話を直接伺ってまいりました。皆様の声を真摯に受け止めながら、子育て支援と高齢者の生き生き支援を重点施策の2本柱として、住民税非課税世帯の未就学児を対象に医療機関等での窓口負担をなくす新たな制度の開始や、子どもと高齢者を対象とした県有施設の入館料の無料化など、積極的かつ、重点的に取り組みを進めてきたところです。

また、川内原発に係る防災対策の充実・強化については、今後とも全力で取り組みながら、本県の多様で豊かな自然を活用し、再生可能エネルギーを推進することで、原発に頼らない社会づくりに向けた歩みを少しずつ進めてまいりたいと考えております。

さて、昨年は、硫黄山噴火に伴う川内川の水質問題や、台風第24号による住家、農作物等への大きな被害が発生し、自然の脅威と不断の防災対策の重要性に思いを致した年でした。これらの被害等への対応についても、引き続き、スピード感を持って全力で取り組んでまいります。

一方、明治維新150周年を記念して、鹿児島県の未来を担う子ども達に郷土の先人達の志を伝えるため、「明治150年記念式典」を開催したほか、様々なイベントやプロモーションを展開し、県内外に向けて盛り上がる鹿児島を情報発信した年でもありました。

このような取り組みに加え、鹿児島空港に乗り入れる国際線の新規就航やクルーズ船の寄港などもあり、昨年の延べ宿泊者数は、過去最高を記録した平成29年を更に上回ることが期待されています。

また、日本一の鹿児島黒牛や養殖ブリといった県産農林水産物の輸出額についても、平成29年度に過去最高を記録するなど、着実に輸出拡大が図られているところです。

奄美の世界自然遺産登録については、国において昨年11月、奄美・沖縄を推薦候補とすることが決定され、登録に向け、一歩前進したものと考えております。

こうした鹿児島に吹いている追い風を更に上昇気流に乗せ、全国高等学校総合体育大会が開催される今年、そして国民体育大会、全国障害者スポーツ大会を控えた来年へと、この勢いをどんどん加速させていくため、本県が有する「健康・癒やし・長寿」に有益な地域資源、いわゆる「鹿児島のウェルネス」を活用した観光振興や、農林水産物の販路・輸出拡大、競争力のある産業の振興を図るなど、県勢発展や県民福祉の向上につながる施策の充実に努めてまいります。

今後とも、時代の変化に的確に対応しながら、「鹿児島に生まれてよかった。鹿児島に住んでよかった。」そう思える鹿児島を目指し、全力を挙げて取り組んでまいりますので、皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

県民の皆様にとりまして、新しい年が輝かしく幸多い年でありますことを心から祈念いたします。



平成三十一年 元旦

鹿児島県知事 三反園 訓